

# 森林防疫二コース

No. 28. 林野庁 森林害虫防除室 1954. 7. 1.

衰えもみせず新地域へひろがつゆくクリタマバチには匙を投げたくなるのが人情か、だが、つまらぬ手間と笑わずに、とも角虫癪をとつてみることも手をかえ、品をかえしていぢめるといえむごくも聞えるが、林地の兎害を防ぐ手はそれだけ。年間被害を費用何で見積つたらば、ざつと8億円とでた。北海道国有林の大災害、風倒木450万石、しかも、残立木に虫害発生のおそれがある。とはいえ、一般には新聞種にもならない話題だとみえる。

## 防除対策は同一歩調で

荒 川 潔

昭和12年私が長崎管林署長をしていた頃、佐世保の海軍司令部から軍港周辺のマツの様子がおかしいので、来て見て呉れないかと言うことで、態々長崎から船で佐世保港内に乗り込んで行つたことがある。まだ、マツクイムシの有名でない頃で、それが病害であるか、虫害によるものか、全く不明であつた。港内を進むにつれて、点々と樹冠の赤くなつていのが見えはじめ奥部の東南一帯の松林は真赤になつていのに驚いた。堤防に上つて何本かの被害木を調べている中に、それがマツクイムシの被害であることを認めた。その頃この害虫の被害は兵庫県の一部にあることが分つていのに過ぎなかつたが、その後戦争が苛烈になり、木材の増産が進むにつれ、害虫の被害も全国的にその度を加えて行つた。終戦の翌春私は徳島県から、島根県庁に移つて行つた。島根県の主木はマツであるが、被害は激害地区であつた。それも2年後には10万石許りの被害木を出した。此処には又他県に例のないマツノタマバエが隠岐島に千数百町歩も蔓延して、之が防除対策に悩まされた。尙引続いて広葉樹の栗の木にクリタマバチが出はじめ、之には全く閉口してつた。一昨年の夏、私は虫害県で有名な宮崎に転勤して来たが、本県は昭和24年1年間にマツクイムシの被害で87万石を喰潰され、今尙年間10万石前後の被害がある。

従つて虫害に対する県民の関心は極めて鋭敏である。目下県内には此の害虫の外にスギノタマバエ(被害面積5000町)スギハムシ(2000町)クリタマバチ(5~60万石)の猖獗を極めてい。前二者は法定外なので、急速に法定内に加えて貰わねばならない。終戦後の日本は、全く森林害虫国の感さえある。之が防除対策には国を挙げて当らねばならないし、同一害虫には夫々関係府県が一律となつて、同一歩調で邁進すべきであつて、其の間行政区界などはありえない。

本県における防除対策は被害町村に、防除隊を編成し、青壮年はもとより老人、学童に至る迄弘報車を繰出して防除の普及宣伝に努力すると共に之が実行に涙ぐましい活動をしている。

国をはじめ、関係府県の御協力をお願いする次第である。

(宮崎県林務部長)

### 情 報

#### ◆ 発生速報

#### 病 害

#### ○ マツの葉銹病

福 島 信夫郡大庭村大字李平の黒坊坂、永坂、赤坂の各字の3年生アカマツ人工林に群状に発生、6月2日発見。被害面積激害19町8反5畝。全林木がほとんど罹病し、天然生稚樹にも被害が発生している。防除のため石灰硫黄合剤、ボルドー液の散布を行い、下刈の励行を指導しているが本年の生育はほとんど望まれない状態にある。

(県 6. 11)

新 潟 佐渡郡羽茂村本郷城ヶ沢の1~25年生アカマツ人工林に発生、5月13日発見。被害面積新植地は激害2町、被害本数6,000本。25年生林分は微害2町。被害は本年初めて発生した。

中頸城郡谷浜村の10年生以下のアカマツ人工林に群状に発生、5月1日発見。被害面積激害1町、中害7町。1部枯損したものもある。被害は本年初めて発生した。生育が甚しく害されている。

(県 5. 25)

三 重 南牟婁郡荒坂村甫母浦の2年生(1回床替)のクロマツ苗畑に発生、3月20日発見。被害地は南面の砂質壤土、面積約5畝、周囲はナツミカン畑。被害は本年初めて発生した。防除のため石灰硫黄合剤を散布した。

(県 5. 6)

## 森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

### ○ マツの葉フルイ病

**新 潟** 中頸城郡下の八千浦、湯町の両村、柿崎町の20年生以下のクロマツ、アカマツの人工林に群状に発生、5月1日発見。被害面積激害50町、中害530町。被害は昨年発生したと思われるが、発見出来なかつた。被害木の中にはすでに枯死したものもある。被害は海岸沿いの保安林に多発している。これが枯死した場合、附近農耕地に及ぼす影響は甚大である。(県 5. 25)

### ○ マツ葉枯病

**三 重** 一志郡久居町の1~2年生のクロマツ苗畑に発生。4月25日発見。被害面積激害1町、中害5反、微害5反。被害地は黒色砂質壤土であるが、永年苗木を大量に生産して土地が瘦悪化しつつある。被害は昨年8月頃から発生し初め、被害苗木は焼却、4斗式ボルドー液の散布を行つたが、被害は甚大で、被害の甚しい苗畑では全滅したものもあつた。本年もその発生を予想して、早期の床替、土壤消毒、4斗式ボルドー液の散布を奨励して来たが、床替直後、約20日間降雨がなく、苗木が弱つたがために、発生したものと考える。(県 6. 1)

### ○ スギの枝枯症状

**神奈川** 三浦郡葉山町木古庭の3年生スギに発生、3月発見。被害面積約3反。被害は植栽木の約3%に発生。被害軽微のものは枝条の1部、激害のものは地上30cm前後から上部が赤褐色に枯損している。枯損した枝の基部から新葉の出たものもある。(愛甲地事・加藤銈治 6. 2)

### ○ スギの枝枯菌核病

**秋 田** 河辺郡豊岩村の20~30年生スギに発生、5月31日発見。被害面積約2反。被害は数年前から僅かに発生していたようであるが、今春急に激害となつた。被害は初め被圧木に発生していたが遂に健全木も激害を被るようになった。(林試秋田・佐藤邦彦 6. 5)

### ○ スギの病害2種

**岐 阜** 郡上郡牛道村大字西多の4年生スギ人工林に発生、昨年秋発見。被害面積約3町。被害地は牛道川の主流標高1,000m、東南面の急斜地、埴質壤土。被害は昨年秋から発生し、今春になつて激甚となつた。現在この林地の3分の2に被害が発生して、蔓延の兆がある。郡上郡下川村大字三戸の30年生のスギに発生、昨年秋発見。被害面積1反。被害地は東南面の緩斜地、礫壤土。被害は胸高直径6~8寸の壮令木約20本に1団となつて発生、その林縁の伐採跡地に植栽したスギ稚樹にも発生している。壮令木の樹冠の約4分の3は枯損し、稚樹は枯死したものもある。(県 5. 28)

### 虫 害

#### ○ カラマツオオアブラ

**新 潟** 中頸城郡名香山村の20年生以下のカラマツ人工林に群状に発生、5月15日発見。被害面積激害10町、中害40町。被害は昨年から発生し、薬剤駆除を行つたが、本年も発生した。被害のため生育が害されている。(県 5. 25)

#### ○ スギノメムシ

**宮 崎** 西臼杵郡三ヶ所村、その他県下一円の2~10年生スギ人工林に発生。(県 5. 11)  
**鹿児島** 始良郡蒲生町、その他県下一円のスギ人工林に発生。(県林試 5. 19)

註 詳細については詳報を参照されたい。

#### ○ ツガカレハ

**神奈川** 三浦郡葉山町の葉山町小学校校庭。愛甲郡下の小鮎、南毛利、高峯の各村。高座郡小出町  
上記各町村のモミ、ヒマラヤシダーに発生、葉を食害している。5月31日発見。被害は昨年から発生していたらしい。(愛甲地事・加藤銈治 6. 2)

#### ○ マツカレハ

**福 島** 原町市および相馬郡石神村にわたる雲雀ヶ原開拓地の7~9年生アカマツの耕地防風林一帯に発生、4月15日発見。被害面積12町。被害は1昨年春から発生していたらしいが、本年は激害となる。駆除のため5月上旬BHC粉剤を散布するとともに附近居住者によつて捕殺をも行つている。(相馬地事・小林吉寿 5. 22)  
相馬郡駒ヶ峯村大字大迫の開拓地のアカマツ耕地防風林に発生、5月10日発見。被害面積中害2町。被害林は列状に生立したアカマツ、スギの混生林の中で、西方から次第に蔓延している。被害は昨年春から僅かに発生していたが、本年激害となつた。駆除のためBHC粉剤を散布するとともに各所有者が捕殺を行つている。現在他への蔓延は認めない。(県 6. 11)  
**千 葉** 県下各町村における被害面積は次の通りである。  
山武郡下の睦岡(1町)。豊岡(2町9反)。大平(35町)。増穂(6町5反)。南郷(10町)。東金市(22町4反)。  
千葉郡下の椎名(3町)。誉田(4町)。轅橋(20町)。幕張(20町)。  
匝瑳郡椿海(46町)。  
被害はいずれも本年初めて発生し、激害をきわめて、著しく生長が阻害されている。椿海、幕張においては、すでに1部枯死したものもある。(県 5. 27)

## 森林防疫 ニ ュ ー ス

長野 上伊那郡南箕輪村の信州大学農学部構内の5~13年生アカマツ林に発生、3月29日発見。被害は附近一帯の同一林分が広大な面積にわたつて、開墾されたため、取残された櫛内林に1昨年来発生している。被害は次第に増大している。

(信大演林・島崎洋路 4. 12)

上伊那郡南箕輪村字南原の10~15年生アカマツ天然林に群状に発生、3月24日発見。被害面積激害1町。中害1町。被害林は開拓地に残された防風林のため、従来から多少は発生していたらしいが昨年春群状に発生して大被害があつた。本年は全面に発生している。被害木は2年にわたる被害のためすでに枯死したものもあり、防風機能が著しく害されている。

(上伊那地事・林 昭夫)  
県 5. 4)

奈良 北葛城郡志都美村上中ハゲツゲの10~15年生アカマツ天然更新地に群状に発生、4月20日発見。被害面積激害1町、中害1町。被害は昨年から発生したらしい。附近の天然林に蔓延するおそれがある。駆除のため $\gamma$ 1% BHC 粉剤を散布した。

(葛城地区・丸山 崇 Ag 4. 30)  
長谷川 茂

島根 安来市切川町(旧能義郡赤江村)の10~30年生アカマツ、クロマツの天然林、人工林に発生、5月4日発見。被害面積激害1町、中害4町微害35町。被害は本年初めて発生した。被害地はこの地区唯一の零細所有による自家用林で、根本的な早期駆除対策をたてる必要があるが、現在は捕殺によつて蔓延を防いでいる。

(能義地事・門協和男 6. 9)

徳島 鳴門市里浦町の海岸一帯の飛砂防備保安林のマツ人工林に発生、昨年8月22日発見。被害面積激害33町、枯損材積700石。被害は従来から多少はあつたが、昨年来特に甚大となつた。この被害によつて飛砂防備の機能が低下し、農地に被害を及ぼしている。

坂野郡松茂村の防風林として帯状に生立している45年生マツ人工林に発生、昨年8月22日発見。被害面積激害5町、枯損材積250石。防風林の機能低下により農地、住居に被害を及ぼしている。

板東町大麻神社参道の風致林の230年生マツ人工林に発生、昨年8月15日発見。被害面積激害2町、枯損材積50石。著しく風致が害されている。堀江村の神社参道の70~100年生のマツ人工林に発生、昨年8月20日発見。被害面積激害2町、枯損材積50石。著しく風致が害されている。

上記3町村においては従来被害は見られなかつたが、いずれも昨年甚大な被害が発生したので、駆除のため10~11月に5~7日間にわたつて $\gamma$ 3% BHC 粉剤を散布した。

那賀郡富岡町の20~50年生マツ人工林に群状或

は点状に発生、昨年10月11日発見。被害面積中害10町、枯損材積10石。被害は昨年来発生した。附近にはマツ単純林があり、蔓延するおそれがある。見能林村大字南林中井字北の脇の30~80年生マツ人工林に発生、昨年11月20日発見。被害面積激害33町、枯損材積100石。駆除のため薬巻1回、捕殺3回を行い効果があつた。マツクイムシの被害も発生したが、直ちに駆除を行った。被害地は著名の海水浴場で風致上、更に背後の田畑500町歩に対する潮害防備林としての価値も極めて大きい。坂野町の30~70年生マツ人工林に群状、或は列状に発生、昭和27年10月3日発見。被害面積激害15町。枯損材積45石。

(県 5. 25)

佐賀 伊万里市二里町中里野副の5~18年生アカマツに群状に発生、4月20日発見。被害面積激害6町。被害は本年初めて発生。駆除のため $\gamma$ 3% BHC 粉剤を散布した。

(県 6. 1)

鹿児島 鹿児島市上元原町の30年生クロマツに発生、5月4日発見。被害面積2町。

(県・福満義則 5. 12)

鹿児島郡谷山町上塩尻の20~40年生クロマツに発生、4月28日発見。被害面積4町。

(県・宇都 寛 5. 12)

○ マツカレハ

○ クスサン

奈良 天理市天理教教会本部一帯の30~70年生クスノキ、イチヨウ、アカマツの街路樹に発生、4月26日発見。被害面積20町余。昨年はクスサンの被害が激甚であつたが、薬剤散布の適期を失したので、天理教信徒の人々によつて、繭の採取を行った。本年も林試京都支場の中原技官の現地調査によつて、発生が認められた。なお本年はマツカレハの発生も認められた。

(県・高柳正幸 4. 30)

○ マイマイガ

新潟 中頸城郡下の寺野、里五十公野、高士、上杉、菅原の各村。

南魚沼郡六日町。

高田市

上記各市町村の5~30年生広葉樹の天然林、人工林に群状に発生、4月17日発見。被害面積1,760町。被害は昨年から発生した。被害によつて全葉が食尽され、著しく生育が害され、水源涵養上甚大な影響を及ぼしている。

(県 4. 28)

中頸城郡下の上杉、高坂の両村の8~35年生のナラを主とする広葉樹の天然林に群状に発生、4月29日発見。被害面積中害50町、微害50町。被害は昨年から発生した。広葉樹の外スギ、農作物にも被害が発生し、カキ、クリ等は被害のために結実しなくなつた。

(県 5. 25)

## 森林防疫 ニュース

## ○ ヨツボシヒゲナガカミキリ

## ○ ヤツバキクイムシ

北海道 上士幌署音更経営区 136 林班 (十勝国河東郡上士幌町字三股) の 70 年生以上のトドマツ、150 年生以上のエゾマツ、アカエゾマツの天然林に発生、5 月 30 日発見。被害面積 200 町。被害林は択伐林型の林相で、ここは昭和 27 年度直営生産で 19% の択伐を行つた跡地で、枯損率は 11%、1 町当り 74 石、被害材積 15,500 石がある。更にまた、この地は去る 5 月 10 日の風害による被害材積が 10,000 石程あるので、これ等を合せて早期に駆除することが考えられている。

(帯広局・織田虎男 6. 3)

## ○ アカエゾキクイムシ

## ○ トドマツキクイムシ

## ○ トドマツノコキクイムシ

## ○ ヤツバキクイムシ

北海道 斜里署知床経営区 28、い小班 (斜里郡斜里町字岩尾別) の 40~110 年生アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツに発生、3 月 1 日発見。被害面積 50 町、被害本数 534 本、被害材積 3,120 石。この被害は昭和 25 年に択伐率 26% をもつて伐採されたがために、林況が急激に変化して、害虫発生の原因となつたものと認める。

置戸署置戸経営区 103 林班 (常呂郡置戸町) の 60~240 年生のアカエゾマツ、エゾマツ、トドマツに群状に発生、昭和 28 年 4 月 2 日発見。被害面積 155 町、被害材積 28,800 石。被害地は択伐跡地。

(北見局・宮川 弘 4. 13)  
北見局 4. 27)

## ○ マツノコキクイムシ

福 島 白河市南瑚公園鏡山の 30~40 年生アカマツ人工林に発生、5 月 20 日発見。被害面積中害 2 町、被害材積 300 石。被害は本年初めて発生。史蹟名所として文化財保護法の適用を受ける風致地区内にあるため、速かな処理に困難がある。被害が公園全域にわたるおそれがある。

西白河郡西郷村の白河パルプ工場土場のアカマツ材に発生、5 月 20 日発見。被害はこの土場にある全数 23,500 石の内、皮付丸太の 3,500 石に発生している。被害は従来から多少はあつたが、附近の立木はすでに駆除を行つているので、この土場から発生したものと認める。附近の立木に蔓延するおそれがあり、森林所有者からも苦情が出ている。同町大字小田倉の 30~40 年生アカマツ天然林に発生、5 月 20 日発見。被害面積激害 15 町。被害林は上記パルプ工場附近にあり、被害は従来から発生し、昨年度も駆除を行つた。本年も森林所有者と協力して駆除を行つた。(県 6. 11)

## ○ ハンノキクイムシ

愛 媛 喜多郡肱川村の 11 年生クリ人工林に点状に発生、5 月 20 日発見。被害面積激害 1 町。被害は数年前から連年多少はあつた。被害が蔓延する時は、クリが全滅し、特産のクリの実がなくなるおそれがある。(県 6. 15)

## ○ マツノキハバチ

新 潟 西蒲原郡岩室村大字樋會、石瀬の 5~8 年生アカマツ人工林に群状に発生、4 月 12 日発見。被害面積激害 20 町、中害 25 町。被害は昨年 85 町にわたり発生し、この内激害地 30 町に駆除のため 1% BHC 粉剤を散布した。現在枯死したものはないが、被害木が幼令のため、激害をうけたものは枯死するおそれがある。又樹勢の衰えたものは、マツクイムシ類が発生するおそれがある。

中頸城郡下の柿崎町、湯町村の 10 年生以下のアカマツ人工林に群状に発生、5 月 10 日発見。被害面積激害 40 町、中害 100 町。被害林は飛砂防止保安林であり、これが枯死した際は農耕地に甚大な影響をおよぼし、又マツクイムシの発生を促すおそれがある。激害地 40 町に駆除のため 1% BHC 粉剤を散布した。(県 5. 25)

刈羽郡刈羽村大字刈羽の 6~7 年生アカマツ人工林に群状に発生、5 月 20 日発見。被害面積中害 5 畝。被害は本年初めて発生した。被害によつて生育は害され、枯死した場合は飛砂防止上農耕地に及ぼす影響は甚大である。

北蒲原郡乙村の 5~15 年生アカマツ人工林全域に発生、5 月 25 日発見。被害面積激害 40 町、中害 40 町、微害 20 町。被害は昨年も発生し、駆除のため 1% BHC 粉剤を 22 町に散布した。本年も激害地 40 町に対して早急に駆除を行う必要があるが、附近に桑園があるため、風向等を調査している。松塚村の 5~15 年生アカマツ人工林に点状に発生、5 月 26 日発見。被害面積激害 5 町、中害 5 町、微害 10 町。被害は昨年も発生し、駆除のため 1% BHC 粉剤を 7 町に散布した。

松浦村の 5~15 年生アカマツ人工林に点状に発生、5 月 28 日発見。被害面積激害 5 町、中害 7 町、微害 3 町。被害は本年初めて発生した。上記各地においても、針葉が毎年食害される時は枯死するおそれがある。(県 6. 7)

## ○ マツノミドリハバチ

石 川 江沼郡三木村の 3~5 年生アカマツに発生、5 月 8 日発見。被害面積 5 町。

鹿島郡西島村の 3~5 年生アカマツに発生、5 月 8 日発見。被害面積 2 町。幼虫は 10~20 頭が塊状になつて、新葉および全葉を食害している。駆除のため 3% BHC 粉剤を散布した。

(県 5. 30)

## ○ クリタマバチ

福島 福島市御山, 渡利, 杉妻の各地区  
信夫郡平田村

上記各地の5~10年生のシバグりに発生, 5月12日発見。被害面積御山50町, 渡利100町, 杉妻25町, 平田村25町。被害は雑木林中に2~3割混生しているシバグりに発生している。渡利地区は被害が特に甚大である。

(信夫地事・伊関二郎 5. 2)

福島市においては, 上記の各地区の外, 小倉寺地区にも発生した。被害は4~25年生の薪炭林の中に混生するシバグリの天然林および栽培園にも発生している。被害面積激害220町, 中害100町, 微害50町。被害は幼令林に多く, 壮令林には少い, 虫癭の大部分は昨年の産卵による被害であるが, 1部には1昨年産卵し, 昨年すでに羽化脱出した古い虫癭も認められる。

伊達郡陸合 大字松原字柳沢の3年生利平グりに発生, 5月19日発見。植栽本数200本の内4本に被害発生, 現在のところ他に発生していない。被害は本年初めて発生した。

信夫郡大森村大字永井川の伐採後6~8年の薪炭林に混生しているシバグりに発生, 5月30日発見。被害面積激害50町, 微害150町。被害は本年初めて発生。現在枯死したものはない。

立子山村一円の伐採後6~8年生の薪炭林に混生しているシバグりに発生, 5月31日発見。被害面積中害100町。被害は本年初めて発生。

上記各地においては駆除のため, 地区普及員の指導によつて, 町村役場と森林所有者の協力によつて被害枝の虫癭の採取, 焼却を行っている。

(県 6. 11)

千葉 野田市の清水, 岩名, 五木新田の各地区の5~30年生のクリ(シバグリ, 丹波, 大正早生)に発生, 5月14日発見。被害状況調査中。

(野田市・津谷西太郎 Ag 5. 16)

上記野田市の外, 東葛飾郡川間村にも発生, 被害区域面積400町の中で被害樹15本を発見。被害地は江戸川を中心に埼玉県南桜井, 川辺の両村の対岸にあたる地域にある。被害状況調査中

(県 5. 18)

神奈川 中郡大磯町(C基本区Ⅵ森林区)の野生クリに全面的に発生, 4月15日発見。被害面積については調査を行つている。昨年度においては, 中郡下の全町村に被害が発生し, 被害面積3町。本年度は昨年より拡がる見込み。昨年の被害樹は枯死した。注意すべきことは銀寄というので購入した苗木に本虫が発生している。

(中地事・数田俊雄 4. 17)

石川 石川郡下の一の宮, 内川の両村一帯のシバグりに発生, 5月13日発見。(県 5. 15)

山梨 県下各町村における5月31日現在の被害面積, 被害本数, 被害材積は次の通りである。

註 用=用材林, 薪=薪炭林, 栽=栽培林。  
南巨摩郡下の増穂(薪・20町, 9,500本, 500石), 穂積(用・10町, 300本, 1,500石。薪・40町, 16,000本, 2,000石), 鵜沢(薪・20町, 10,000本, 1,500石), 五開(用・20町, 6,000本, 4,000石。薪・74町, 29,600本, 6,940石, 栽・6町, 3,000本, 60石), 西島(薪・19町, 7,600本, 1,950石。栽・1町, 500本, 50石), 大須成(薪・58町, 23,200本, 6,900石, 栽・2町, 1,000本, 100石)。静川(薪・20町, 8,000本, 1,500石), 原(薪・18町, 7,200本, 1,900石。栽・2町, 1,000本, 100石), 曙(薪・50町, 18,150本, 3,850石。栽・5町, 2,500本, 250石), 五箇(薪・59町, 22,600本, 4,960石。栽・4町, 2,000本, 100石), 都川(薪・30町, 13,000本, 3,500石), 三里(薪・10町, 4,500本, 1,000石), 西山(薪・10町, 4,500本, 1,000石), 祝島(用・30町, 8,500本, 4,250石。薪・45町, 18,000本, 4,600石。栽・5町, 2,500本, 150石), 本建(用・20町, 6,000本, 4,000石。薪・65町5反, 26,030本, 6,760石。栽・5町, 2,500本, 250石), 下山(薪・35町, 14,000本, 3,250石。栽・5町, 2,500本, 250石), 身延(薪・25町, 10,000本, 2,550石。栽・5町, 2,500本, 250石), 豊岡(用・30町, 9,000本, 6,500石。薪・62町, 24,100本, 6,070石。栽・10町, 5,000本, 500石), 陸合(用・30町, 9,000本, 5,700石。薪・60町, 24,000本, 6,000石。栽・10町, 5,000本, 500石), 富河(薪・41町, 16,040本, 3,520石。栽・10町, 5,000本, 500石), 万沢(薪・20町, 8,000本, 2,000石。栽・20町, 10,000本, 1,000石)。

北都留郡下の賑岡(薪・7本, 1石。栽・3本3石), 七保(栽・3本, 3石), 猿橋(用・1町, 200本, 100石。薪・10町, 2,000本, 200石), 富浜(薪・3町, 1,000本, 70石), 梁川(用・1町, 100本, 100石。薪・30町, 3,000本, 300石。栽・1反, 10本, 10石), 大目(薪・10町, 500本, 150石), 甲東(薪・2町, 200本, 50石), 巖(用・7町, 320本, 160石。薪・18町, 1,700本, 170石。栽・1町, 12本, 12石), 島田(用・5町, 150本, 75石。薪・10町, 1,100本, 110石。栽・7反, 9本, 8石), 上野原(薪・3町, 200本, 20石), 桐原(薪・12町, 120本, 12石), 大鶴(5反, 80本, 8石)。

西八代郡下の市川大門(薪・5町, 1,500本, 500石), 大同(薪・5町, 2,000本, 700石), 山保(薪・10町, 3,500本, 700石), 六郷(薪・7町, 2,000本, 600石), 久那土(薪・15町, 4,000本,

## 森林防疫 ニ ュ ー ス

1,500石), 古関(薪・40町, 18,000本, 3,000石), 下部(用・1町5反, 60本, 80石。薪・50町, 22,000本, 4,000石), 共和(薪・30町, 10,000本, 1,500石), 大河内(薪・30町, 12,000本, 2,000石), 栄(薪・100町, 35,000本, 4,365石。栽・7町, 3,500本, 2,000石)。

南都留郡下の道志(用・25町, 2,100本, 1,700石。薪・55町, 30,000本, 950石), 秋山(用・30町, 1,800本, 400石。栽・70町, 11,000本, 2,200石)。

県下の被害合計1,608町8反1畝, 570,104本, 130,177石。 (県 6. 9)

長野 西筑摩郡下の大桑村大字野尻, 長野, 須原の各部落の里山地帯全域の5~60年生シバグリの天然林に発生, 5月15日発見。被害面積微害100町, 被害材積10,000石。被害は本年初めて発生。被害状況は軽微であるが, 発生区域は広範囲にわたっている。(西筑摩地事・原 憲司)

読書村の全域の5~50年生シバグリの天然林に発生。5月4日発見。被害面積激害50町, 中害100町, 微害150町, 被害材積10,500石。昨年は極めて少数の虫癭の発生を認めたとすぎないが, 本年は激害地に接する地域では多数の虫癭が形成されたが, 北部に行くにつれて少くなっている。

吾妻村全域の5年生以上のシバグリの天然林に発生, 4月25日発見。被害面積激害300町, 被害材積15,000石。被害は昨年から発生した。

田立村全域の5~50年生のシバグリの天然林に発生4月25日発見。被害面積激害50町, 被害材積500石。被害は昨年小範囲に発生していた。

山口村全域の3~60年生のシバグリの天然林, 15~30年生支那栗, 笠原早生, 丹波等の栽培林に発生, 4月24日発見。被害面積激害700町, 被害材積10,000石。被害は昨年から発生した。

神坂村全域の3~70年生のシバグリの天然林, 20年生支那栗, 丹波栗の栽培林に発生, 4月28日発見。被害面積激害300町, 被害材積13,000石。

上記各村においては, この被害のためクリ実の収穫は皆無となり, 又養蜂家は採蜜が困難になつて

(西筑摩地事・中谷健樹)  
県 5. 24)

下伊那郡下の智里村の3~80年生のシバグリの天然林に発生, 6月3日発見。被害面積激害1,600町中害1,300町, 微害900町, 被害材積34,500石。清内路村全域の5~60年生のシバグリの天然林に発生, 6月4日発見。被害面積激害150町, 中害1,100町, 微害1,750町, 被害材積20,000石。会地村大字春日, 駒場の10~38年生のシバグリの天然林に群状或は点状に発生, 6月8日発見。被害面積320町(この内群状発生面積18町), 被害材積13,320石。

山本村大字青木の40~50年生のシバグリの天然林に群状に発生, 6月8日発見。被害面積微害15町, 被害材積7,500石。(下伊那地事・関島寛雄) 伊賀良村大字北方, 大瀬木, 飯田市大字上飯田大平の10~30年生のシバグリの天然林に発生, 6月8日発見。被害面積微害300町, 被害材積6,420石。根羽村全域の5~50年のシバグリの天然林に点状に発生, 6月15日発見。被害面積微害5,300町, 被害材積13,600石。

伍和村大字中尾, 原の平の5~50年生のシバグリの天然林に点状に発生, 6月15日発見。被害面積微害110町, 被害材積1,900石。

平谷村大字木地小屋, 赤坂峠10~30年生のシバグリの天然林に点状に発生, 6月15日発見。被害面積微害1,550町, 被害材積9,300石。

浪合村大字三階峯, 大川入山の10~30年生のシバグリの天然林に点状に発生, 6月15日発見。被害面積微害3,000町。被害材積6,000石。

飯田市大平の5~50年生のシバグリの天然林に点状に発生, 6月8日発見。被害面積微害30町, 被害材積1,200石。(下伊那地事・代田多見雄)

上記各村においては, 被害は昨年から発生し, 岐阜, 愛知の両県県境においては虫癭の附着数が多いが, 遠ざかるに従つて少量となつている。

飯田市および下伊那郡下の被害面積合計17,425町, 被害材積合計113,740石。(県 6. 21)

宮崎 県下各町村における被害面積, 被害材積は次の通りである。

西臼杵郡下の高千穂町(3,151町, 49,000石), 上野村(1,203町, 12,000石), 岩戸村(7,035町, 83,000石), 日の影町(10,664町, 116,000石), 鞍岡村(3,845町, 137,000石), 三ヶ所村(4,923町, 98,000石), 田原村(1,701町, 38,000石)。

東臼杵郡下の椎葉村(5,000町, 61,000石), 諸塚村(1,800町, 10,000石), 北方村(750町, 9,000石)

県下の被害面積合計40,452町, 被害材積合計613,000石。(県 5. 14)

### 獣 害

#### ○ ノネズミ

秋田 本荘署芋川経営区(本荘市出戸町字水林)の5年生クロマツ人工林に点状に発生, 5月10日発見。被害本数223本。被害地は海岸砂地に植栽したクロマツに発生したもので, 根部に巣を営み, 根部の地下約5cm位までの部分を食害している。(水林治事・土田森造 6. 4)

群馬 吾妻郡沢田村大字四万字井戸沢の2年生キリに発生, 4月1日発見。被害面積2町。被害木は積雪下にて根際を食害され, 枯死している。

(吾妻地事・小池茂男 5. 21)

## ◆ 詳 報

## スギノメムシ—種名決定

昭和27年6月以来調査中の、スギの芽の部分を枯死させる新害虫の種名は、昭和27年10月から浪速大学教授一色周知博士に同定をお願いしていたが、本年3月2日漸く完全標本が採れ、種名が次のように定つた。

スギノメムシ *Argyresthia anthocephala*  
*Meyrick*

宮崎 西臼杵郡三ヶ所村その他県下一円の2～10年生のスギ人工林に発生、3月2日幼虫発見。この害虫はスギの芽先1～1.5cm程の内部組織を完全に食い尽し、この部分を枯死させる。被害発生地は立地、生立の状況等には特に関係は認められない。県下一帯に点々と散発し、所によつては被害の高い地区もある。この被害によつて芽先部が枯れるため、その下部から二又になるものが往々認められ、特に梢頭先端が加害された場合は、その被害が大きい。(県5.11)

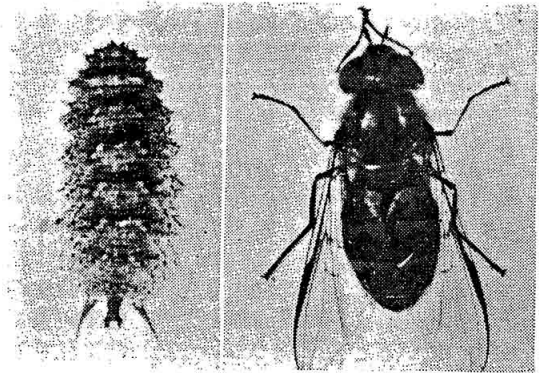
鹿児島 県下のスギタマバエの被害は近年非常に激しくなつてきたが、この被害に混つてスギの新芽を害する珍しい小蛾があるのに気がついた。当時、被害は微々として目立たなかつたが、注意して見ると本県各地に散発していることがわかつた。幼虫がスギの新芽内に入り食害するがために、成長を弱め、幹形を悪くし、挿穂に非常な損失を与え、人工幼令林では軽視出来ない。県下始良郡蒲生町の4年生スギ人工林の被害例によると、調査総本数100本の内加害されたものは79本、被害芽の総数354芽。

次に当场スギ挿付事業の際、附近農家から穂作りをすませたスギ穂を集め、この穂を無作為にとつて調べた穂の長さは平均1尺1寸。調査挿穂総本数325本の内、被害穂数233本、被害芽総数683芽。(県林試5.19)

マツカレハなどを捕えるフタスジヒラタアブ  
(*Syrphus bilineatus* MATS) について

マツカレハの生態撮影候補地物色のため、4月18日、埼玉県下の被害現地調査中、大里郡本畠村大字本田字東柏彦の山林中で、マツケムシを捕食している天敵を発見した。この天敵はシヨクガバイ科(*Syrphidae*)のヒラタアブの一種に属し、幼虫であることは判つたが、飼育試験を行い、羽化したものについて調べた結果、素木得一博士によりフタスジヒラタアブ(*Syrphus bilineatus* MATSUMURA)であることが同定確認された。

シヨクガバイ科の幼虫は従来の記載によると、ニワトコ、カエデ等に寄生するアブラムシ類を捕



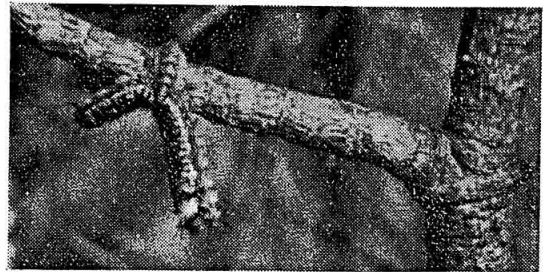
第I図 フタスジヒラタアブ  
幼虫 成虫

食するとされていたが、本畠付近一帯で数回にわたり行つた調査の結果、この類が松林に生活し、鱗翅目のカレハガ科、メイガ科、蝶類の幼虫、膜翅目ハバチ類の幼虫、蜻蛉目の成虫、蜘蛛目の成虫を攻撃する事実を目撃した。外国ではこの類が蝶や蛾の幼虫類を攻撃するという記載がある。

この幼虫の運動は比較的緩慢で、陽光を避けて位置を変える程度であり、広範囲の移動はしないようである。ケムシ類が虫体に触れた時はきわめて活潑な積極的攻撃をして、2～3分反転しただけでケムシ類は死んでしまう。飛翔する昆虫類はこの虫に接触しなければ捕えられないが、樹上を匍匐している昆虫で、特に体毛の少ないものは攻撃されることが多いようである。

この天敵の好む環境等については今後の調査を必要とするが、シヨクガバイ科関係の記録としては昭和4～7年応用動物学雑誌に二宮栄一氏の発表があるのみで、特にフタスジヒラタアブについては、同氏の昭和7年における記載だけであつて、生活史等は不明である。外国では Clausen の *Entomophagous Insects* その他がある。

目下当场では本虫の飼育試験を行つていて、その生活史の究明と棲息環境及び範囲等を調査中である。(林試昆虫 有賀好文)



第II図 マツカレハ幼虫を捕食する  
フタスジヒラタアブ

クリタマバチ防除特集

宮崎県のクリタマバチ防除

宮崎県にクリタマバチが侵入していることを発見したのは昨昭和28年5月14日で、場所は熊本県境に近い西臼杵郡三ヶ所村岡の迫、発見者は地区普及員佐藤彌助技師であつた。5月19日付佐藤技師からのクリタマバチ発生報告を本庁で受取つたのは5月22日。前年度までに大分、熊本両県まで侵入していることは判つていたため特に注意していた折柄であつたので、早速林野庁に報告し、日高技師は打合のため上京すると共に、被害調査と同時に6月中旬には成虫が羽化するおそれがあるため駆除対策として取敢ず虫癭採集計画を建てた。続いて入る情報により被害は西臼杵郡内の全町村に蔓延していることが判つたので、5月27日には西臼杵郡内の町村関係吏員、支庁及び教育庁関係官、県会議員、県からは湯池保護係長以下係官が西臼杵支庁に集まり防除対策を協議した。

この駆除作業は町村長を先頭に町村の全員が参加してやらねば実行出来ることではないので、翌28日には更に各町村長、教育長、農協等の首脳部と協議会を催した。此処で各町村毎にクリタマバチ防除協議会を結成し、支庁にその連合体を設立することに決した。

一方県、支庁及び町村係員は折柄降る雨を侵して被害調査を実施しその実体を明かにした。

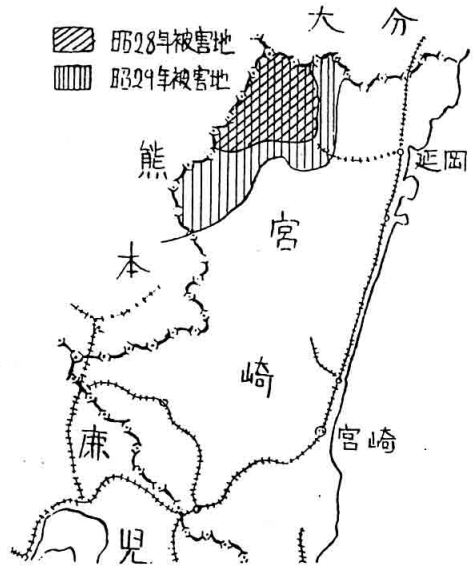
第1表 クリタマバチ被害調査表(昭28.6)

町村名	面積	本数	材積
三ヶ所村	5,860 町	201,950 本	70,674 石
鞍岡村	3,230	64,400	42,100
田原村	560	18,840	7,536
高千穂町	3,500	36,600	17,185
岩戸村	520	17,360	10,105
上野村	350	13,675	7,500
日ノ影町	451	6,500	3,650
計	14,471	359,325	158,750

この調査で被害面積や材積が意外に大きいことがわかり、又古い虫癭を若干認めたので侵入したのは昨年であつたらうと推察された。

6月2日には高千穂町、3日には三ヶ所村と次々に各町村毎にクリタマバチ防除対策委員会が開かれ防除対策は日1日と整つて行つた。

6月4日には熊本県側と馬見原町に会合して、クリタマバチ防除について協力し合うよう打合をした。



クリタマバチ被害地域図

これまでに全町村民の熱意を昂揚するためには

1. 県及び町村の弘報車は全能力を挙げて各町村内を隅なく駆け廻り啓蒙宣伝に努めた。
2. ポスター、部落座談会等によつて啓蒙した。
3. 各中、小學校生徒、児童にはクリタマバチの生活史、被害のおそろしさ、更に町村財政に及ぼす影響等を説明し、それを自宅に帰つて父母、兄弟によく伝えるようにした。
4. 町村長を始め県、町村の係員は熱意の比較的挙らない部落に対しては仕事を終つた農家を訪れ深夜までかかつて説得に努めた。

こうした体勢の下に6月10~13日を中心にして各町村は約一週間に亘つて一斉駆除を実施した。折からのジュディス台風(6月7日通過)の余波を受けて雨降りしきる中を町村長を先頭に老若男女を問わず特に生徒や児童達も参加して、一同ミノ、カサを着けて虫癭採集に努め、集められた山のような虫癭は直ちに焼却された。又診療所は万一の災害に備えて救急車を準備して待機したが、特に三ヶ所村のY医師等は自家用車で村内を駆け廻り防除を督励すると同時に救急処置に当るといふ有様であつた。こうして虫癭採集による春季の駆除は一応終つた。実績は第2表の通りである。

重複するが参考のため三ヶ所村の当時の日記から摘記すると次のようになる。

昭和28.5.14. 林業技術普及員佐藤彌助氏は偶々三ヶ所村岡の迫の栗樹上にクリタマバチの虫癭が着生していることを発見した。

5.15. 佐藤技師は他の部落、山野にもゴールが着生しているかどうか調査を開始した。



森林防疫 ニ ュ ー ス

第2表 虫癩採集実績表

町 村 名	駆除面積	ゴール採集量	出勤延人員
三ヶ所村	3,100 町	16,502 貫	10,871 人
鞍岡村	780	666	2,550
田原村	220	104	969
高千穂町	260	624	3,086
岩戸村	360	36	665
上野村	200	40	1,665
日ノ影町	120	7	293
計	5,040	17,979	20,099

5. 19. 調査の結果殆ど本村の全山に被害が及んでいることを確認す。取敢ず村長より県林務部長宛伊藤専門普及員の派遣申請をする。

5. 20. 偶々本年度の区長、班長会議が開催されたのでクリタマバチ実物、写真其他資料を示して説明しゴール着生樹の発見に努めてもらうよう協力を願う。

5. 21. 県から係官が派遣せられる迄にクリタマバチに関する一切の資料蒐集に努める。他町村に発生の有無を問合す。

5. 27. 県技術員、県議、支庁林務課長等状況視察のため来村。

5. 28. 阿蘇郡宮地地方事務所長、同郡隣接町村長宛防除協力方申入す。西臼杵支庁で開かれたクリタマバチ防除対策協議会で西臼杵郡全町村共同歩調をとることとなる。

5. 30. 村役場会議室でクリタマバチ防除対策準備委員会(村役場村長以下全員、農協長、同職員、中・小学校長、各出先機関主任者)を開催、支庁長、林務課長臨席の下に駆除期間を5月30日~6月13日とし行事予定表が作られ実施の申合をする。

6. 3. 三ヶ所村クリタマバチ防除対策委員会を開催し準備委員会の申合事項に基き詳細説明の後委員の委嘱、行事予定の承認を求めた。全員異議なく決定。計画通り村民の総力を挙げて短期間に駆除することになった。役場に本部をおき、本部要員は委員長が任命、其他実施の細部は各部落の実情に応じ委員相互に連絡協定するよう申合せ

6. 4~5. 各部落委員は部落毎に常会を行い、本部員は部落担当員を定めて各部落の常会に出席しクリタマバチの解説と駆除の必要性を強調した。

6. 6~7. 中・小学校生徒児童ゴール採集。この間生徒達の作業を便ならしめる為消防団、青協、婦協等は全面的に協力し実績を挙げた。

6. 8~9. 駆除の主旨を徹底させる為=ニュースカーによる呼びかけ、ポスターの掲示、部落担当員の巡回等を行う。この間団体による駆除を続行すると共に10日の一斉駆除に必要な作業用具の整備焼却用薪材採集をした。

6. 10. 全村民6,000人が一斉駆除を実施する。午前7時半鐘で全般に周知させ、8時を期して各部落毎に班長指揮の下に雨の中を山に入る。

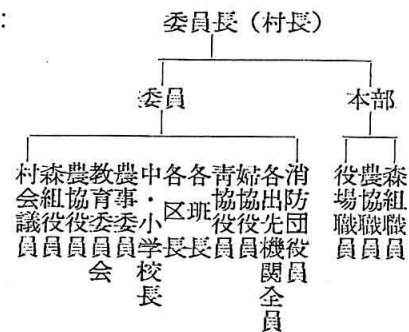
6. 11~13. 前日に引続き連日の雨をおかして駆除に従事した。

実績： 総面積 3,100町歩、駆除本数 52,371本  
延人員 7,353人、ゴール量10,572貫、別に生徒、  
学童は 6~7日 1,780人 3,582貫 10~11日  
1,738人 2,348貫

第3表 クリタマバチ駆除実績

町 村 名	駆除面積	駆除材積
三ヶ所村	8,953 町	49,693 石
鞍岡村	1,213	17,025
田原村	230	1,778
高千穂町	349	10,928
岩戸村	372	4,525
上野村	250	3,012
日ノ影町	162	1,930
計	11,529	88,891

機構：



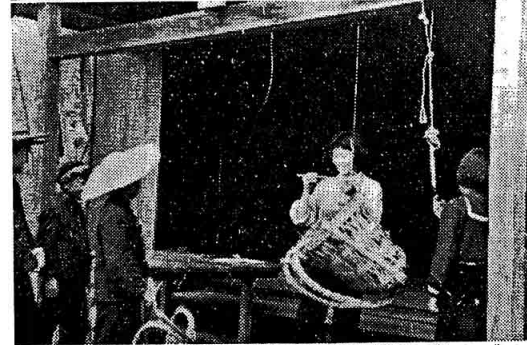
この駆除作業が実施される頃は高冷地のこの地方では丁度茶摘み、麦の刈入れ、田植とが重なる1年中で最も忙しい時期であるにも拘らず全町村民がその重要性を自覚して、自分達の財産を守るため、国の資源を守るため、否それよりもこの害虫を他の地域に蔓延させまいと云う美しい心を結集してこの困難な事業が実行されたことは特筆すべきで、又山林の病虫害に対してこのように全町村民が力を合せて一致協力によつて駆除に当つたことは前例を見ない偉大な仕事である。

その後更に伐倒による冬期の駆除を実施したが年間の駆除実績は第3表の通りである。

以上は昨年のことを書き並べたが、クリの多いこの地域は切り尽せなかつたものや被害区域が拡大したため未だ70万石も被害木があるので、今年も亦5月17~24日をクリタマバチ駆除期間として、昨年同様に計画が建てられ、主として利用価値のない幼令木の伐倒による春期駆除が実施された。  
(宮崎県・林務部)

宮崎県西臼杵郡下の

高千穂町



「皆さん！ クリタマバチを駆除しましょう」今日もしとしとと降る小雨の中を、弘報車のアナウンスが新緑の山々に流れてゆく……

クリタマバチ防除週間の5月12日から18日の1週間は、天気の良い日は1日もなかつたが、かえつてこれが幸いした。農家は丁度麦の取入れで猫の手も借りたい時期だが、雨のために取入れも出来ず、この運動に全面的に協力をしてくれた。

中、小学校の生徒も、雨にもめげず、定刻には集つてくれた。雨にぬれた木膚は美しく光つて、滑るので危険なことこの上もない。しかし村人達は勇敢に木膚にしがみつき、惜気もなく枝が打落されてゆく。伝説のペールを覆つたこの美しい高千穂の山々を、「クリタマバチ」から守るためにこの人達は雨にぬれながら作業を続けてゆく。

或る部落では、大人から子供まで、実によく合の合つた流れ作業を行つているのに出合つた。

男が枝を落し、幹を倒すと、婦人達は虫嚙をとり、それを男子学童達が公民館へ「カルイ」で運ぶ、公民館には女子学童達が待機し、計量と記録、焼却を受持つている。見ていると実に気持ちよくこの作業が水の流れるように運ばれてゆく。運搬の男の子をフト見ると、腰からは雨でぬれた草のためにずぶぬれだ。思わず「風邪をひかないように」と声をかけると、この学童はニッコリ笑つて走り去つた。

こうした町村全体の心からの協力を得た今年の運動は、「クリタマバチ」の完全駆除は出来なくても、充分目的を達し得たものと思つている。私達の努力、そして町民の人々の誠意が緑の山々に溢れ、美しい高千穂を形造つてゆくのだ。

夕暮の迫る峡谷の山々に、クリタマバチを焼く白い煙が、幾条となく立ち、静かに今日一日も暮れてゆく。

(高千穂町役場広報室・橋本 至)

写真説明 左上から

- I 弘報車は部落から部落へ、啓蒙宣伝に駆け廻る。
- II 勇敢に滑る木膚にしがみつき、惜気もなく枝を伐り落す。赤ん坊もお母さんの背中で協力。
- III カルイで運ばれた虫嚙は、上級生達がどンドンハカリにかけてゆく。
- IV 秤量した虫嚙は完全に焼却する。右端は地下足袋ばきで督励に廻っている佐藤寿高千穂町長。

### クリタマバチの一斉駆除

#### 三ヶ所村

三ヶ所村では5月17日、支庁におけるクリタマバチ防除対策協議会が決定した今年度実施計画に応じ、委員会を開いた。委員会は村民が総力をあげて春期駆除に参加することを決議し、作業方針としては利用価値のない細いクリは今期に伐倒駆除し、利用価値のある太い樹は秋期に用材として伐採することをきめた。翌18日と19日は知識の普及につとめ、部落常会や、小、中学校を通じて、村民全体に呼びかけた。更に次の2日間は弘報車の巡回により徹底をはかるとともに、作業予定地の調査や器材の準備に計画の万全を期した。当日、5月22日7時30分、サイレンを吹鳴し、一斉防除を報せ、8時30分、各班長の指導で、伐倒、枝打、ゴール採集或は焼却等分担により、作業は能率的に進行した。24日まで3日間に出勤人数は6,345人に及び、面積4,155町、数量212,898本、12,513石の栗樹から47,236貫という大量のゴールを得た。

今回の成果に力を得て、完全な駆除を旨として計画の遂行に進んでいる。

(三ヶ所村役場・中崎大三郎)



写真説明 I (右) II~IV (左上から)

- I 役場には「くりたまばち駆除対策本部」が設けられ。
- II 街には学童の画いたポスターがはられる。
- III 坊やも母ちやんの後から虫腰採りのお手伝い。
- IV 伐られた枝を婦人達は集めて焼いている。



## 富士川流域のクリタマバチの防除—山梨県

本年5月山梨県下でクリタマバチ被害を発見、その数量は13万石、神奈川、静岡の2方面から蔓延してきたことが想像されている。後者は富士川流域であつて、その被害状態は集団的にゴールのついた栗を見出し、全般的にまだ被害木の密度は低い。更に各被害木についても、ゴールの附着密度は低い。またゴールの形が大きいのに比して幼虫数は少なく、大体3~5匹で3匹が多い。6月5日の虫態は蛹で目が茶色になつていた。身延附近では明かに抵抗性をもつと思われるシバグリが目につき、今後精査する要があると思う。

南巨摩郡では地方事務所が中心となり、クリタマバチ防除対策協議会を結成、弘報活動による防除知識の普及につとめ、弘報車やパンフレットで注意を喚起している。県当局でも防除強調週間を設けたり、知事命による防除強化等にのり出している。各町村では一斉防除に努力をした結果今期中1千貫を上廻る栗樹のゴールが採取された。対岸の西八代郡下にも被害があり、同地方事務所でも林務課が中心となり駆除に努力をしている。

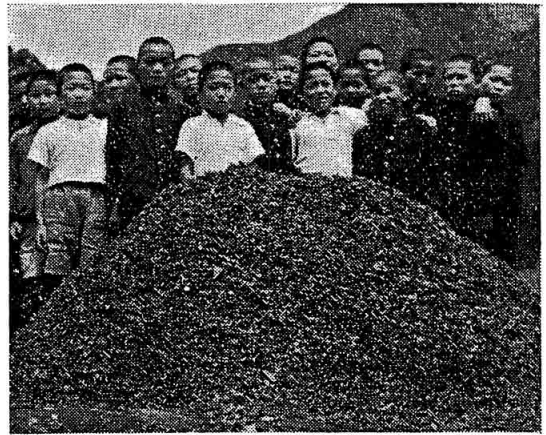
## 木曾谷のクリタマバチ被害—長野県

昭和28年6月、長野県下で発見されたクリタマバチ被害は防疫ニュース15, 17, 18各号に掲載されたが、被害地域は木曾川流域の神坂、山口、田立、吾妻、読書等の5カ村であり、防除を実施した結果、4,000石を上廻る栗樹のゴールを採取した。しかし、時期がおくれていたのと、はじめてのことで徹底しないうちに水害に見舞われやむを得ず中止してしまつた。

しかるに今春を迎えたところ、被害59,000石に増加し、同村内でも新しい地区に蔓延した。また隣接村である大桑村でも発見された。神坂、吾妻、山口各村の前年発生した地域内の状況を見ると、路傍の小さなシバグリに至るまでゴールをつけ、しかも各枝の芽の殆どがゴールとなり、1個のゴールには5匹以上の虫の個体がみられた。6月1日の虫の状態は幼虫で、蛹は発見されず、関東地方に比べてはるかに発育がおくれている。

県当局ではクリタマバチを木曾谷の外に出さぬように防除の目標を定め、また現地の西筑摩地方事務所としては無被害村への侵入防止のため、国有林、鉄道等関係当局にも協力を求め、駆除指導に努力しているが、それに応じた地元各村は村議会で防除の決議をしたり、協議会を結成する等一斉防除による地区的な掃滅を計画している。

(防除室)



中学生が5日間に採つた虫癭  
(6月10日~14日)

高知県香美郡横山村岡内中学校

## 高知県下のクリタマバチ虫癭採取

高知県では5月初め、各ブロック毎に防除対策協議会を催し、各町村とも虫癭の採取に懸命の努力をしているが、予定期日までは虫癭500万個を採取する予定である。

上掲写真の横山村では、岡内中学校のほか小学校でも6月10日から6月14日まで、学童達が40万個の虫癭を採つた。(県6.18)

## 車掌さんとクリタマバチ

—林材新聞「木馬道」から—

窓に煙る雨の中を、列車はいま木曾谷に入り、奥へと進んでいる。と、我々の前に現れた専務車掌「皆様のお耳をしばらく拝借して木曾谷の御紹介を申し上げます」の挨拶からはじまり、中仙道がひらけた当時の話や名所旧跡の紹介をいとも細かにしてくれた。耳を傾けている間にも汽車は駅毎にとまり、車掌さんの仕事も忙しい。

最後に我々の箱にきたとき、2, 3枚の葉とこぶが3個ついた5寸程の小枝を持つてきて、これがクリタマバチのゴールであることとその被害の甚大さを語ると共に、車中の皆に駆除の協力を求めた。「ホウ」という感動が乗客の目にうかぶ。

世はせち辛い闘争時代、国鉄労組もしのぎを削つている。そんな時に多忙な職責を果しながら、史蹟や産業を紹介して旅情をなぐさめ、森林の保護にまで奉仕してくれることは感激に価すると思つた。苦心して、その車掌さんの名は塩尻車掌区の子崎弘氏と聞いた。

(29. 6. 19)

## 解 説

支那アブラギリ褐斑病  
についてのいきさつ

最近林業試験場渋川浩三技官によつて、長崎県下に発生した支那アブラギリの激しい病気とその甚しい惨害について視察記が発表された(本誌 No. 24)。この病気が和歌山県で問題になつた頃から私どももこれにいささか関係し、主として渋川技官が担当して若干の研究を行つて来た。そして機会あるごとに、これは恐るべき病害で、早急に対策をたてなければ、ちよつと明治末期から大正初期にかけて全国的に蔓延し、実生苗養成を一時不可能にしたスギの赤枯病のように、惨澹たる被害をうけるおそれがあると警告して来た。不幸にして私どもの予想と予言は適中し、それも案外速かにこの病気の惨害がもたらされた。これを私どもが手がけた当初から、林野庁研究普及課松山技官、小野技官のお2人は、私どもの予想と警告を卒直に認められて、被害の蔓延拡大を阻止するため献身的な努力をかたむけられたのであるが、いろいろな事情のためその努力にむくいられることが少く、今日の惨害を見るに至つたことは、私どもも心から遺憾に思つているのである。

私の手もとに、たまたま、この病気について当時交わされた文書の写しが若干保管されているので、これらを中心にして、これまでのいきさつを述べることにしたい。文書はすべて原文のままとし、私の意見は文中に註をつけて記述してゆく。

和歌山県下の支那アブラギリに病害らしいものが発生して、その被害も軽微でないといううわさはほのかに聞いていたが、その正体は私どもに知る由もなかつた。ところで、昭和26年10月、和歌山県から、林野庁に次の文書が出されてから、問題はやや具体的になつて来た。

林第237号

昭和26年10月24日

林野庁指導部研究普及課長殿

和歌山県林政課長

支那油桐炭疽病について

標記について本県有田郡岩倉村一体に本年度油桐林果実葉等に対して一般に左記の病状発生し相当の被害あるようにも思われるので、ここに資料を別途送付しますから病害鑑定方御願ひ致します。

記

## 1. 発生状況

葉に対して7月上旬頃小さい黒点(針先の跡)が生じ日時と共に拡大し10月上旬に至ると被害葉は黄色から

褐色に変化して行く。果実は表皮に8月頃より黒斑を生じ漸次拡大して9月下旬頃より早期落果を見るもの有り、又黒色に変化して落果せずに梢端にあるものも有り、落果せざるものは種実の充実是非常に悪いが黒斑のある早期落果せるものでも種実の充実は完全の様にも思われる。

## 2. 発生箇所

乾燥地よりも陰地の湿地が多い様に思われる。南面も北面も変りは有りません。樹勢の強い雄木の方が被害が少ない様である。

3. 本年度の旱魃の関係等で発生したとも思われる。

4. 本件についての病害は柿梨等の炭疽病の一種と思われる(註 カキヤナシの炭疽病と同一の病気という意味か、又は類似の病気という意味か不明であるが、恐らく後者のつもりであろう。)又防除法(註 防除法の3字は削除して可)発生前ボルドウ液撒布等の〔註 必要の2字添加〕も感じられるが、病害に対する防除法も御指示願ひする。

## 備考

これ〔が発生〕〔註 3字削除〕は1年生苗木より発生しあり、其の跡地に翌年作付した大根の葉にも伝染して、又甘藷にも伝染して黒斑病となる形成〔註 形跡の誤りか?〕があり、他作物にも漸次被害が出て来る様なことになれば憂慮すべきものなり〔註 アブラギリからの病菌がダイコンの斑点性病害やサツマイモの黒斑病をひきおこすように述べてあるが、これは何かの見誤りで、直接の関係は無いと思われる〕。

## 炭疽病(支那油桐)

## 1年生苗木

之は1年生苗木の莖葉成木の葉果実に着きます。幼苗の莖に着くものは密生する場合に出る様で、すこし荒播すると被害は極く軽微です。発生時期は調べて居ませんが、6月頃からと思います。初め黒色の小斑点が出来、次第に拡大しますが、最後に径1.5センチ位になりますが其れ以上は拡らない。勿論発育に多少影響あると思うが、幼木は生長を阻害される事なく普通に生育するように思われる。

葉に生ずるものは矢張6月~7月頃と思いますが御承知の通り黒斑を生ずる理ですが、大きくはならず数を増して全面に散布します。

果実に生ずるものは相当遅く8月頃と思ひますが黒点を生じてそれが拡大し、径1センチ~2センチ位の大きさになりますが、小さいものを加えると結実数の1/3位は罹つて居るのでは無いですか。種子への影響は未だ充分調べて居りませんから断言出来ませんが大した影響は無いです。果皮の内部内果皮迄は病気が透つて居ますが種子迄は滲透(註 侵入)しない場合が多く(註 私どもの研究によつて種皮を通じ、仁まで病菌が侵入している場合の多いことがわかつた)然し病徴の烈しいものは種子の表面に黒色の斑点を生じます。罹病した果実は早く落ちる事は明かです。

すなわち、この病気を炭疽病の1種と見たのであるが、後に述べるように炭疽病では無いことが

私どもによつて明かにされた。上の記述は病徴及び被害状況を大体よく言い表わしているものと思われる。

研究普及課から私どもに届けられた標本は僅少で、また好適な材部では無かつたが、ひと通り調べて伝染性の強い病害によることはわかつた。しかし送付先からは一応「炭疽病」という病名がついて来ていることでもあるし、また私どもの調べた試料は好適でない、しかも僅かなものに過ぎなかつたので、慎重を期する為病名及び病原の発表は保留して、「激しい伝染病であることはまちがいない」と暫定的な回答をし、更に多量の材料を提供していただいてから詳細な報告を行うことを約した。

間もなく、林野庁から各都府県林務主任官宛てこの病気について次のような警告が寄せられた。

26 林野特第 302 号

昭和 26 年 11 月 8 日

林務主管部長殿

林野庁林政部特産課長

油桐樹の病害について

最近、和歌山県下に於て、炭疽病と思われる病徴（註病害）が、支那油桐樹に発生し蔓延の徴候がある。

その病原ならびに防除対策については、目下農林省林業試験場等とも連絡して調査研究中であるが、この病害は相当の伝染性を有し、被害樹は衰弱するは勿論、殊に果実の犯されたものは、油分の質を共に著しく低減させるものと見られ、この被害の他所への伝播を憂慮してある次第である。

何れ、病原その他具体的事項が判明の上は、連絡致す所存であるが、取急ぎ右概要を申し上げて御参考に供する。

追て、貴県（府）下に右に該当する病状その他特殊林産物の生産に重大な損害を及ぼす懼れある病虫害を発見された場合は、速に状況を記し、出来得れば被害現物を添えて当庁（要急の場合は直接林業試験場へでも可）御連絡願いたい。

なお、今回和歌山県下に発生した病徴は供試物（註林野庁に届けられた標本という意味であろうか）について云えば、葉には直径 0.2~0.5 耗位（註これは極めて小さい病斑の場合である）の黒褐色の斑点を生じ、果実は黒変して、果皮には、径 10~15 耗程度の長楕円形にして暗褐色の病斑が認められる。

枝幹、その他の病徴は目下照会中であるが、樺の炭疽病（*Colletotrichum* [註 *Colletotrichum* の誤] *Camelliae* Mass) 及び桃の炭疽病（*Gloeosporium laeticolor* Berk) から考えて若枝にも葉と同様の病徴が生じているものと推料する。以上

当時は和歌山県からアブラガリの種苗が多量に他の府県に移出されていた事情もあり、またこの病気の伝染性からみて、上のような通達が出されて警告が寄せられたことは、まことに時宜を得た

処置といわなければならない。この文書が出されてから間もなく、それらしい病気が兵庫県その他にあることがわかつた。

やがて和歌山県に現地調査された特産課中園技官から病害標本が再び私どもの手元に届けられた。この材料は有田郡岩倉村と東牟婁郡高池町で採集されたものであるが、採集時期がおそきに過ぎた（11月19~20日に採集）ことと、また、これは専門家でない人の採集品なので止むを得ないことであるが、標本があまり好適でないために、これを調べるのに私どもはかなりに難渋した。それでも翌年1月いつばいまでかかつて、一応の調査を了え、林業試験場長名を以て次のような回答が出された。

26 試保第 54 号

昭和 27 年 2 月 5 日

林野庁林政部特産課長殿

林業試験場長

油桐の病害について

11 月 26 日付 26 林野特第 302 号を以て保護部長宛御依頼のあつた標記の件について左記の通り回答いたします。

記

1. 先般数回にわたつて御届けになつた材料について精査の結果病患部から検出分離された主要菌類は次の通りである。

(1) サーコスボラ菌 (*Cercospora* sp.) (仮称 褐斑病)

本菌は果皮の変色部、新梢病斑部及び葉の斑点部に検出され、分離培養比較の結果、これら各部からの菌は同一のものであることを確認した。

病斑部は淡褐色を呈し、新梢及び果皮の場合は黒褐色で病徴は一見炭疽病に類似する。

(2) マクロフオマ菌 (*Macrophoma* sp.)

(3) フオモプシス菌 (*Phomopsis* sp.)

(2), (3) は何れも果実に於て認められ、外果皮、内外皮、種皮及び仁の各部に夥しく多量に検出された。

(4) 炭疽病らしいとの御申越しにより、慎重精査したが、御届けいただいた材料に関する限り炭疽病菌は全く検出することが出来なかつた。

2. 油桐の病害に関する従来の研究は極めて少く本邦に於ては殆ど皆無の状態である。従つて今後詳細な実験結果にもとづかなければ確言することは出来ないがサーコスボラ菌（褐斑病）は無傷健全な葉、果実及び新梢を侵し、この種病原菌（スギ苗赤枯病菌と近縁のもの〔註 スギを侵すという意味ではない〕）の一般的性質として、病原性は激烈なものと察知される。

果実の各部から夥しく多量に検出された、マクロフオマ菌及びフオモプシス菌もまた、健全な果実に侵入し登熟不良の原因となる可能性は充分ある。

3. 右の諸病害は主として苗木及び種子によつて伝播されるものと考えられ、無病地にこれらが移入された

場合気象条件及び寄主（アブラギリ）の状況によつては激害を蒙る虞れが甚だ多く、又現在の発病地に於ては、早急に防除処置を行わなければ被害は増加の一途を辿る徴候があるものと認められる。

4. 本病害の的確な防除対策は、病原体の確定、病原体の生活史及び罹病機構を明かにした上でなければ得ないのは勿論である。それでまづ第一段階として現地に於て病原体及び罹病経過の調査（6月下旬～7月上旬、8月下旬、9月上旬の最少3回）を行う必要がある。

5. 病原体の性質、発病経路等未詳の現在、防除対策のたてようもないが、応急措置として次の諸事項を実行することにより、ある程度の効果をもたらすものと思われる。

- (1) 苗木の移出にあつては厳重な検査を行い、いやしくも病斑の形成されている苗木は除去処分すること。
- (2) 病害発生地から種子を移入することは甚だ望ましくない。
- (3) 病害発生地に於ては病葉、病果実、病枝条を除去し、完全に焼却すること。
- (4) 苗畑に於ては5斗式ボルドウ合剤を撒布し、無病苗の養成につとめること。

上の報告にある通り、炭疽病らしいといわれて来た支那アブラギリの病害は、実は炭疽病とは関係無く、サーコスボラ菌によるもので、これに対して「褐斑病」という病名が私どもによつてつけられたのである。この文書にもうたつてのように、本病害は猛烈な伝染病ではあり、また私どもは届けられた標本だけによつて調べているため、現地に於ての詳細な調査の必要が認められた。林野庁係官もまた私どもと同一意見で、激害地の実地調査の実現に格段の努力をされたのであるが、当該県にはいろいろな都合があるらしく、仲々思うように事が運ばなかつた。とやかくして時日は経過し、現地調査依頼の文書が林業試験場長に到着したのは、私の釜淵分場長転出の発令されたあとで、身辺多忙になり、折角の申出に応ずることが出来ず、遂に現地調査は実現しなかつた。

このようないきさつがあつたため、私はいつもアブラギリの病害のことを気にかけていた。長崎県下にこの病気らしいものが発生しているということはきいていたが、渋川技官の視察記を読み、また親しく同技官から話をきき、来たるべきものが遂に来たという感じで、心中甚だ暗澹たるものがある。

アブラギリの病害については、私の転出後も渋川技官が担当して研究をつづけている。しかし研究室の人員の関係からこれに多くの時間をさくことが出来ない事情があり、進捗状況はあまりはかばかしくない。最近この褐斑病の防除試験が和歌山県林業試験場から出された。大変結構なことであると思う。私どもはこの病気についての研究結

果を未だ全然公表していないので止むを得なかつたことであろうが、折角防除試験を行われるのであれば、私どもの未発表の研究成績をも提供して試験実行に協力をおしむものではない。このようにすることにより、一層すぐれた成果がおさめられたのではないかと考え、私の努力の足らなかつたのを遺憾に思つている。私どもが出来る研究の範囲は、今の状況では限られている。基礎的研究結果はそのままで実際にはあまり役立たない。この基礎研究結果をもとにして防除試験が行われこれが苗畑或いは林地に應用されてはじめて世の中に役立つのである。防除試験を行う上に無駄をはぶき、防除の重点を明かにし、数多い因子を整理して防除の拠点を見出すのが基礎的研究の目的でなければならない。私どもは基礎研究と圃場の防除試験を緊密な連絡のもとに実行して、理論的にも、また実際の面でも殆んど間然するところのない好結果を、スギの赤枯病についてあげ、大きな貢献をしているものとひそかに自負している。それゆえアブラギリの褐斑病についても、防除試験の実施に積極的な呼びかけと協力をなすべきであつたと悔んでいる。

果実、葉及び新梢に病斑を作る菌をそれぞれ培養比較、接種試験によつて調べた結果は何れも同一菌であることが確認された。褐斑病の病原菌としたサーコスボラ菌は、果実内に深く侵入し種子の仁までも侵している。それゆえ種子で病菌が伝播することも大いにあり得るわけで、これは苗木の場合とは異なり、健全種子か保菌種子かの区別は甚だ困難である。また病果実に見出されるマクロフオマ菌やフオモプシス菌は、その後の調査により直接果実を侵すことは比較的少いようで、サーコスボラ菌によつて罹病した後、二次的に果実に入つて被害をますます大きくするものらしく、果実の場合も主たる病原菌はサーコスボラ菌であることがわかつた。

また病原菌サーコスボラの生活圏として防除上最も重要なのは予想通り病気にかかつた落葉であつた。病菌は落葉で冬を越し、翌年新に胞子が夥しく形成され、第一次伝染は主としてこれによるものであることも明かになり、落葉の処分が甚だ大切なことも実証されている。

ではこの病菌はどのような経路をたどつて、このように伝播したものであろうか？日本アブラギリはこの病気に対して抵抗性が大であるといわれている。それで、従来日本にあつた本菌が、日本アブラギリには大した被害を与えぬため、見すごされて来て、抵抗性の無い支那アブラギリに移つて大きな被害を及ぼすにいたつた、とも考えられるがしかし、これまで日本アブラギリに寄生するサーコスボラ菌についての記録はない。それなら

ばこの病菌の原産地は支那アブラギリの発生の地である中国なのだろうか？ この菌は種子に潜入して伝播することから病菌の郷土を外国に求めることも、出来るわけである。北米合衆国でも支那アブラギリをかなり栽培しているようであるが、未だ褐斑病に類する病害の報告は出ていない。次には見方をかえて、アブラギリ以外の何かほかの植物を侵す菌が、たまたまアブラギリにうつつて病気を起こしたのであるだろうか？

以上のことはいづれも不明であるが、他の植物に寄生していた菌がアブラギリを侵すようになったのだとは、私どもの今までの研究では考えられない。アブラギリの病気について、いささか外国文献をあつてみたが、このようにひどい病気は無く、またアブラギリに寄生するサーコスボラ菌の記載も見出すことが出来ずにいる。今少し広汎な接種試験を行わなければ結論を出すことは出来ないが、恐らく学界に未知の新しい菌ではあるまいか。

(林試・伊藤一雄)

### 質 疑 応 答

#### クリタマバチの腹部の2型

【問】 近頃この地方で羽化した成虫を調べてみると、腹部の先が今までのものと形もちがい産卵管もないものがあります。合ではないでしょうか。今までのものは腹部の先の形が切つたようになっているのは誇張して書いてあるのですか、又実際そうなっているのですか、丸いものは産卵後そうなつたのですか、伺います。

(山梨県南巨摩地事・長田 進)

【答】 クリタマバチ成虫の腹部の先きが切つたようになっているのは、第5背板の後縁がほとんど直線であるためで、それ以下の節がこの下にかくれている場合であります。標本の状態によつてそれらの節が出ていれば円味をもつて見えるわけです。決して誇張してある図ではないと思います。産卵管がないといわれるのは見落されたものです。産卵管が出ている場合と、中にかくれている場合があります。お送りの標本について、腹部の先きの2型のものにつき、産卵管を調べましたところ、全部簡単に産卵管が出てきました。標本は見ただけですべて早であることが、腹端の構造や腹の大きさから容易に判明します。若し合であれば腹部はものすごく小さいし、触角の節数がもう数節多い筈です。私も毎年ものすごく沢山羽化するクリタマバチを見ていますが、まだ合は発見していません。

(九大・安松京三)

#### スギノアカダニの防除法

【問】 県内のスギ幼令林にスギノアカダニが従来より特に多く発生して、生長を阻害しているのので、生態と駆除法を教えてください。

(佐賀県・林務課)

【答】 このことについてはすでに本誌 No. 5 p. 24 でお答えしたが、参考のため再掲する。スギノアカダニは本州、四国、九州に分布している。

生態は充分明かにされていないが、成体或いは卵で越冬するらしい。夏季は卵期4～5日、幼体期は1週間、成体の寿命は1カ月位である。産卵は常に針葉上にする。経過は不規則で、夏は葉上に成体、卵、幼体、亜成体を認める。7～8月頃繁殖するものが最も多く、特に旱天の際には繁殖が旺盛になる。

被害は7～8年生以下の幼令林に多く、幼体、亜成体成体ともに養液を吸収する。被害木は枯死することは稀であるが、生長は阻害される。防除剤としてはニコチン、硫黄剤が有効である。小面積のときは煙草の浸出液の灌注も有効である。硫黄粉を早朝、露のかわかないうちに散布するか、又は石灰硫黄合剤を用いるのもよい。最近有機燐剤でダニ類に大変よく効く薬剤がいろいろ出ているが、人畜に対する毒性が強いので、これを使う時には充分注意しなければならない。

(林試昆研)

### 雑 録

#### 日本林学会および日本林業技術協会 九州支部総会研究発表会

6月13日、熊本県人吉市第1中学校において催された。保護関係は同日午後行われた。

橋本辰記：クリタマバチ被害対策について

小田久五、岩崎 厚：スギザイノタマバチについて

重成義則、岩崎 侃、渡辺 勲：主要樹種材の腐朽菌に対する抵抗性

訂正 No. 26, P. 285「長野県下のアブラギリの病害調査 澁川浩三」は「長崎県下」の誤り。

P. 286「釜淵分場の試験概要 余語普賢他」は「余語昌資」の誤り。

編集後記 本号はクリタマバチ防除特集とし、宮崎県下の一斉駆除、特に山岳重畳、人口少なく、生活も悪条件に満ちた地区の熱心な活動状況を伝えたい。

発行がおくれたことは黒星で、深くお詫びする。本誌の生命は被害速報にあり、頂く速報には感謝する。新カードを送つたので、今後もお願します。(防除室)